

認知症初期集中支援チームの活動について

1. 認知症初期集中支援チーム

40 歳以上で認知症が疑われるが、医療や介護サービスに繋がらない方、または行動心理症状（BPSD）によって支援が困難な方に対して訪問活動（最長 6 か月間）を集中して行い、医療受診や介護サービス等の調整、生活環境の整備を行い、在宅生活の支援を行う。

佐倉市のチーム員編成…地域包括支援センター職員と認知症サポート医

①地域包括支援センター（専門職）	②認知症サポート医
保健師（看護師）、社会福祉士、主任介護支援専門員 ※上記 3 職種のうち、認知症ケアや在宅ケアの実務・相談業務等に 3 年以上携わった経験者に限る ※介護福祉士、精神保健福祉士等の資格を所持する者あり	認知症サポート医等の要件を満たす医師のうち、チーム員となることに同意のあった医師
2 名以上	1 名

志津北部	志津南部	臼井・千代田	佐倉	南部
サポート医 （在宅医）	サポート医 （大学病院）	サポート医 （在宅医）	サポート医 （在宅医）	サポート医 （在宅医）
地域包括 （看護・福祉）	地域包括 （看護・福祉）	地域包括 （看護・福祉）	地域包括 （看護・福祉）	地域包括 （看護・福祉）

チーム員は概ね月 1 回、チーム員会議をサポート医がいる医療機関に出向き、対象者の支援方針を話し合う。

医学的な見地を要する対象者には、サポート医が包括のチーム員と同行訪問している。

2. 基幹型認知症初期集中支援チーム（モデル事業）

（目的）

市内の日常生活圏域単位で配置する認知症初期集中支援チーム（以下「支援チーム」という）に対し、認知症専門医、医療専門職（公認心理師、認知症看護認定看護師、精神保健福祉士等）により構成される基幹型認知症初期集中支援チーム（以下「基幹型支援チーム」という。）を配置し、支援チームへの助言や対象者への入院、受診等へのフォローアップを行うことで認知症の人と家族支援の充実を図ることを目的とする。

（役割）

基幹型支援チーム員医師・基幹型支援チーム員医療専門職として、支援チームからの要請に基づき、必要に応じて支援チーム員とともに訪問を行い、相談に応じる。

（活動例）

- ・BPSD(認知症の行動心理症状)が顕著に現れており、受診が困難な対象者について、支援チームからの訪問の依頼を受け、訪問に同行する。
- ・必要な医療・介護サービスの支援方針を支援チームとともに決定する。
- ・対象者への対応方法について支援チームへの助言を行う。

基幹型支援チーム※		
サポート医		
公認心理師	認知症看護認定看護師	精神保健福祉士等

志津北部支援チーム	志津南部支援チーム	臼井・千代田支援チーム
サポート医	サポート医	サポート医
志津北部地域包括支援センター 看護職・福祉職	志津南部地域包括支援センター 看護職・福祉職	臼井・千代田地域包括支援センター 看護職・福祉職

令和 3 年度は東邦大学医療センター佐倉病院に事業を委託。

訪問対象地域を志津北部圏域、志津南部圏域、臼井・千代田圏域としモデル事業として実施。

3. 認知症初期集中支援対象者の状況（令和 3 年度 4 月～12 月まで）

（単位:人）

対象者	25 人（新規対象者）									
性別	男性	8	女性	17						
年齢階級	74 以下	3	75～79	6	80～84	12	85 以上	4		
世帯状況	独居	6	夫婦のみ	11	その他	8				
把握ルート	本人	1	家族	15	民生委員	1	近隣	0	ケアマネ等	8
認知症自立度	I	4	Ⅱa	4	Ⅱb	4	Ⅲ	2	不明	11
介入時認知症診断	診断あり	3	診断なし	16	不明	8				
介入時要介護認定	申請なし	16	申請中	4	認定あり	5				
介入時介護サービス	利用なし	25	利用あり	0						

4. 支援の状況（令和元年度～令和 3 年度）

（単位:人）

	新規対象者 （人）	訪問延べ 件数	サポート医 同行訪問	チーム員会 議開催回数	延べ検討件 （件）
令和元年度	25	130	3	56	119
令和 2 年度	17	77	0	53	76
令和 3 年度 （12 月まで）	25	106	6 ※（3）	43	106

※基幹型支援チーム訪問

5 基幹型支援チームの活動状況（令和 3 年 6 月から 4 年 1 月まで）

訪問実施 時期	訪問圏 域	対象者概要	訪問後の医療受診
3 年 8 月	志津 南部	80 代男性 夫婦 2 人暮らし 物忘れがあり食事をしたことを忘れる。 持病があるが受診拒否	受診はしていないが、家族としては今後症状が強くなっても内服処方や相談ができる安心感が得られた。
3 年 1 0 月	志津 南部	70 代女性 夫婦二人暮らし 不眠 幻視 対応する夫が疲弊 専門医の受診拒否	家族受診し内服開始 （さくらパス活用）
3 年 1 2 月	志津 南部	80 代女性 独居だが同じ敷地内に長男一家居住 病識なく 妄想により家族が疲弊	家族受診予定
4 年 1 月	志津 北部	80 代女性 家族と同居 幻覚 妄想	家族受診し内服 （さくらパス活用）

【基幹型支援チームのメリット】

○認知症の行動・心理症状（BPSD）の幻覚・妄想が顕著となっており、精神科受診につなげたいが、本人強い拒否があるケースには基幹型支援チームの介入がすることで、医療受診につなげることができている。

【課題】

- 基幹型支援チームと支援チームの連携体制
- 佐倉圏域、南部圏域での基幹型支援チームの設置